

15 ぼくたちの 米づくりこめ

あきおの 学校の うらには、小さな 田んぼが あります。その 田んぼを つかわせて もらって、きょうは、田うえをするのです。ちかくに すんで いる 山下さんも、田うえのしかたを おしえに きて くれました。

田んぼに はいると、足が ぬるつと して、あきおは わくわくと して きました。

「山下さん、ぼく、田うえは はじめてなのですが、どうやって うえたら いいんですか。」

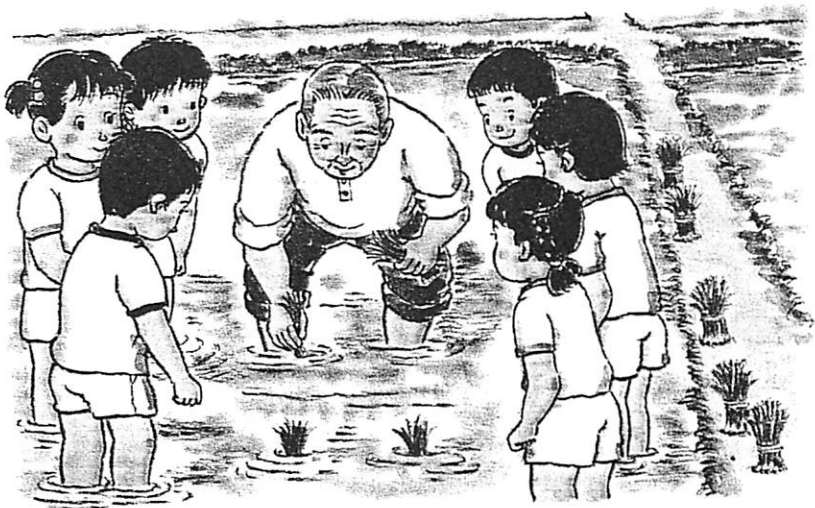
「なえを 五本くらい、ねもとの ほうを もって、土の 中に しっかりと うえるんだよ。」

山下さんが、うえて 見せて くれました。あきおは、まねを して、うえて みました。

「なかなか うまく できて いる ね。その ちょうしだよ。」

あきおは、うれしく なって、ど んどんと うえて いきました。

「山下さん、たくさん できました。どうも ありがとう。」



あきおは、なえが 大きく なるのが たのしみで、まい日、
田んぼを 見に いくようになりました。

「なんだか、田んぼの 水が だんだん へって いるなあ。
どこからか 水が もれて いるのかなあ。」

いねは、水が たっぷり ないと そだちません。あきおは
しんぱいに なって、ひる休みに 水を いれに くる こと
に しました。

ところが、ひる休みに 田んぼへ きて みると、どうして
か 水が いっぱいになっ ています。そんな 日が、なん
日か つづきました。

「だれが 水を いれて くれて いるのだろう。」

ともだちに きいても わかりません。あきおは ふしぎに
おもって いました。

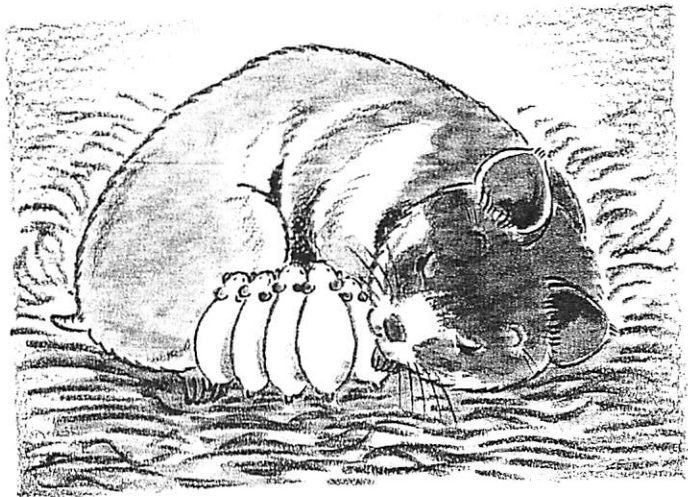
ある 日よう日、あきおが ともだちと あそんだ かえり
に、田んぼの そばを とおると、山下さんが います。

「こんにちは、山下さん。どうしたんですか。」

「このごろ、水が よく へって いるだろう。だから、水を
いれに きたんだよ。」

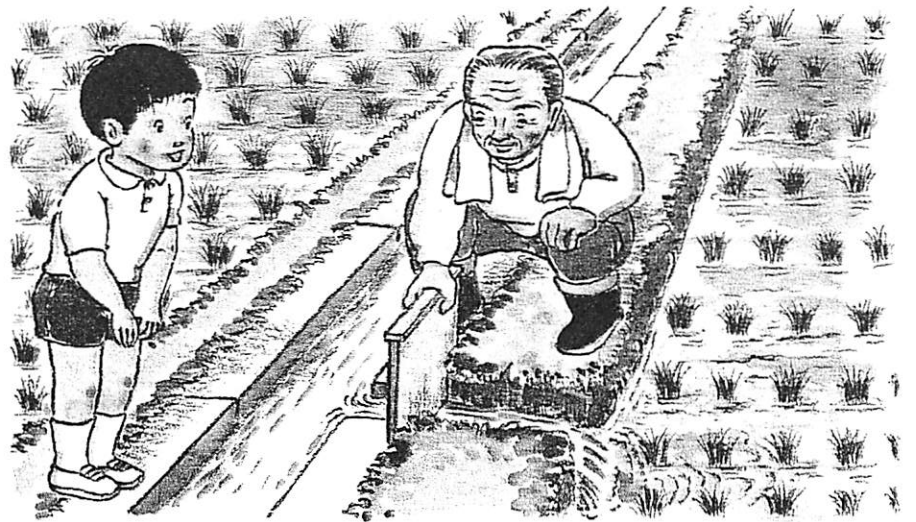
「水を いれて くれて いたのは、山下さんだったのですか。」
あきおは、びっくりして いいました。

「そうだよ。みんなが、だいに して いる いねだから



16 ハムスターの 赤ちゃん

かれて しまったら、かなしい
 だろう。水が もれて いる
 ところも なおして おくよ。」
 「ぼくたちの いねの ことを
 そんなに しんぱいして くれ
 て いたんですね。ほんとうに
 ありがとうございます。」
 あきおは、ていねいに おれい
 を いいました。山下さんは、水
 を いれながら、にっこりと わ
 らいました。



ハムスターの 赤ちゃんが 生まれ
 たよ。
 生まれた ばかりの 赤ちゃん。
 とつても 小さいね。
 おかあさんの おっぱいを、いっ
 しょうけんめい すってるよ。
 けが はえて いないし、目も
 あいて いない。

15 ぼくたちの米づくり

2-(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。(感謝)

□主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

世話になっている人を尊敬したり、感謝の気持ちをもったりして生きていくことは、人間としてきわめて大切なことである。

この大切な心を、わたしたちは、ややもすると、おろそかにしやすい。わたしたちは、日ごろいろいろな人に世話になっていることに気付かず、あたりまえのこととして日常をすごしている場合がある。また、気付いていても、それを形に表せないでいることもある。

自分のために尽くしてくれている人びとの愛情や思いやりを、自分も感じて、世話になったら、「ありがとうございます。」と素直に言える気持ちを育てたい。

〈子どもの実態について〉

二年生の子どもは、親や教師に世話になっていることに気づき、自分が何かをしてもらったときには、素直にお礼をいうことができる。しかし、それは自分がしてもらったことに対するお礼であり、世話をしてくれる人の思いや苦勞

に気付くことや、自分とかわりがうすい人にも世話になっていることに気付くことは難しい。

世話をしてくれている人たちの願いや気持ち、苦勞などを伝えたり、考えたりすることにより、心を込めて「ありがとうございます。」と言える心情を育てたい。

〈資料について〉

学校の裏の田んぼで田うえをしたときに、田うえのしかたを教えてもらった山下さんにお礼を言ったあきお君。あきお君は、ある日曜日に、田んぼに水を入れ、水漏れを直してくれる山下さんに、今度はいいねにお礼を言うことになる。あきお君が、山下さんについていいねにお礼を言ったのは、自分たちに心を配って田んぼに水を入れ、水漏れを直して下さる山下さんの気持ちに気付いたからである。山下さんの思いに気付いたときのあきおの気持ちに共感することから、ねらいに迫りたい。

②ねらい

日ごろ自分たちの世話をしてくれる人びとに対して感謝しようとする心情を深める。

□板書

ぼくたちの米づくり

ありがとうございます

えんぴつをひろってくれた
べんきょうをおしえてくれた

教えてくれてありがとう

田うえをする
あきおと
山下さんの
絵

「なかなかうまくできていますね」
うまくできてよかった
たくさんみるといいな
「水がへっているなあ。」
こまだったなあ
どうして、へるのだろう

ぼくたち
田うえを
山下さん
水を入れてくれてる
水がもれるのをなおしてくれている

いつもぼくのことを
しんばいしてくれている

ぼくのことをおもってくれてありがとう
○○さんーという気持ち
○○さんーという気持ち
※子どもたちが実際にかかわっている人について具体的に上げる

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 身近な生活経験を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ありがとうございます。」と言うのは、どんなときでしょう。 ・ 友達が鉛筆を拾ってくれたとき。 ・ 勉強でこまっついて教えてくれたとき。 <p>(2) 資料「ぼくたちの米づくり」を読み、話し合う。</p> <p>① あきおくんが山下さんに教えてもらいながら田うえをしてどんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ うまくできるかちょっと不安だったけれど、うまく田うえができてよかった。 ・ 山下さんが教えてくれた。ありがとうございます。 ・ おいしいお米がたくさんとれるといいなあ。 <p>② 田んぼの水がだんだんと減っていることに気付いたあきお君は、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水が減ってしまって、困ったな。 ・ 稲がうまく育たなかったらかなしい。 ・ どうして水が減ってしまうのだろう。 <p>③ あきおくんが山下さんに、いいねにお礼を言ったのはどうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が気がつかないところで、自分たちのために水を入れてくれたり、水が漏れるのをなおしてくれたりしていることがわかって、とてもうれしかったから。 ・ 稲がうまく育つか心配だった自分の気持ちを分かってくれていたから。 ・ 自分たちのことを思っていてくれる、山下さんの気持ちに気付いたから。 <p>(3) 自分たちの生活を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ みなさんは、普段、いろいろな人にお世話になっていますね。その人たちは、どんな気持ちであなたたちのお世話をしてくださっていると思いますか。 <p>(4) 世話をしてくださっている方の気持ちを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日ごろ、お礼を言うときのことを取り上げ、価値への方向づけをする。 ・ 心のノート P42・P43 ・ 初めての田うえで、うまく植えることができたよこびと、山下さんが教えてくれたことに対する感謝の気持ちがとらえられるようにする。 ・ 稲が育っていくことを期待し、楽しみにするあきおの思いがとらえられるようにする。 ・ 山下さんが、単に田うえを教えてくれただけではなく、自分たちのことを気にかけて、稲がうまく育ってほしいとわかってくれる山下さんの思いに対するあきおの感動に共感できるようにする。 ・ 役割演技により、あきおへの共感を深めるのもよい。 ・ 体験活動のなかで、世話をしてくださった方、よく世話をしてくださる方の様子を取り上げてその思いについて深めるようにする。 ・ 心のノート P44・P45 ・ 世話をしてくださっている方の話を直接聞いたり、教師が伝えたりして、感謝の思いが深まるようにする。